

社 会

20 社 会

注 意

- 1 問題は **1** から **6** までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は 50 分で、終わりは午後 2 時 00 分です。
- 3 声を出して読むではいけません。
- 4 答えはすべて解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは**特別の指示**のあるもののほかは、各問の**ア・イ・ウ・エ**のうちから、最も適切なものをそれぞれ一つずつ選んで、その記号を書きなさい。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 7 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 次の各問に答えよ。

〔問1〕 次のIの表の**ア**～**エ**は、日本のおもな貿易港（空港を含む）のうち、成田国際空港、東京港、名古屋港、大阪港の**いずれか**の1995年と2005年における輸出額、2005年における輸出品の上位3位の品目と輸出額に占める割合を示したものである。IIの文章で述べている貿易港（空港を含む）に当てはまるのは、Iの**ア**～**エ**のうちのどれか。

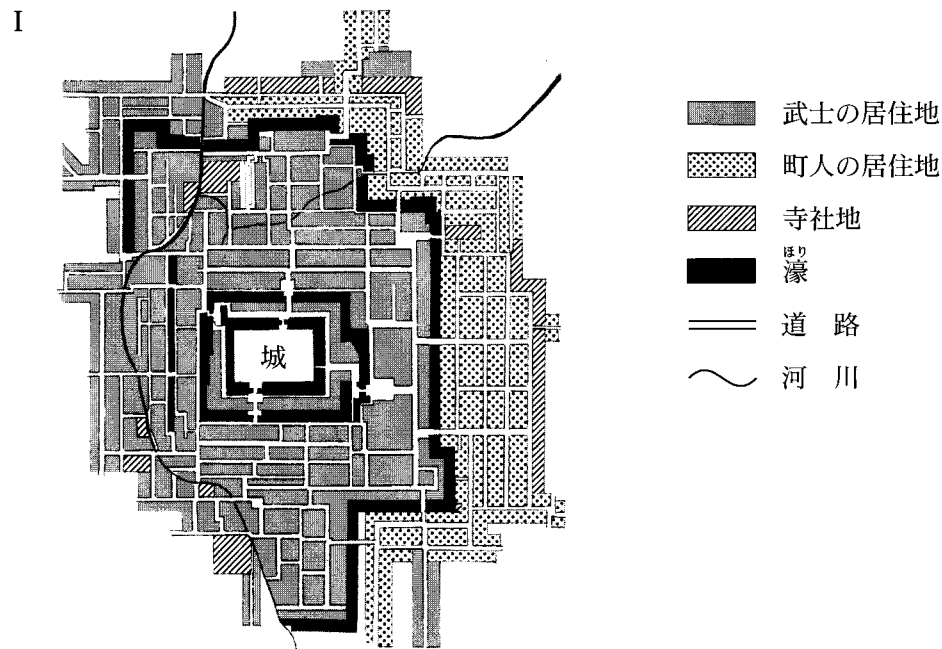
I

	輸出額（百万円）		輸出品の上位3位の品目と輸出額に占める割合（％）		
	1995年	2005年	1位	2位	3位
ア	3154356	2519527	集積回路（7.4）	建設・鉱山用機械（4.5）	プラスチック（4.4）
イ	5662973	8729761	自動車（27.8）	自動車部品（13.4）	内燃機関（5.0）
ウ	4209857	4686817	コンピュータ部品（8.7）	自動車部品（6.4）	プラスチック（5.1）
エ	6105213	10637270	集積回路（11.8）	精密機械（9.3）	映像記録・再生機器（5.5）

〔「日本国勢図会」2007/08年版などより作成〕

II この貿易港（空港を含む）は、1978年に開港し、その後、大幅に貨物取扱量を増やしていった。ここから輸出される品目は、小型軽量で、価格が高いという特色がある。

〔問2〕 次のIの略地図は、江戸時代のある都市の様子を示したものである。IIの文章は、Iの略地図に示された都市の特色について述べたものである。Iの略地図とIIの文章から、このような特色をもつ都市を何というか、漢字3字で書け。

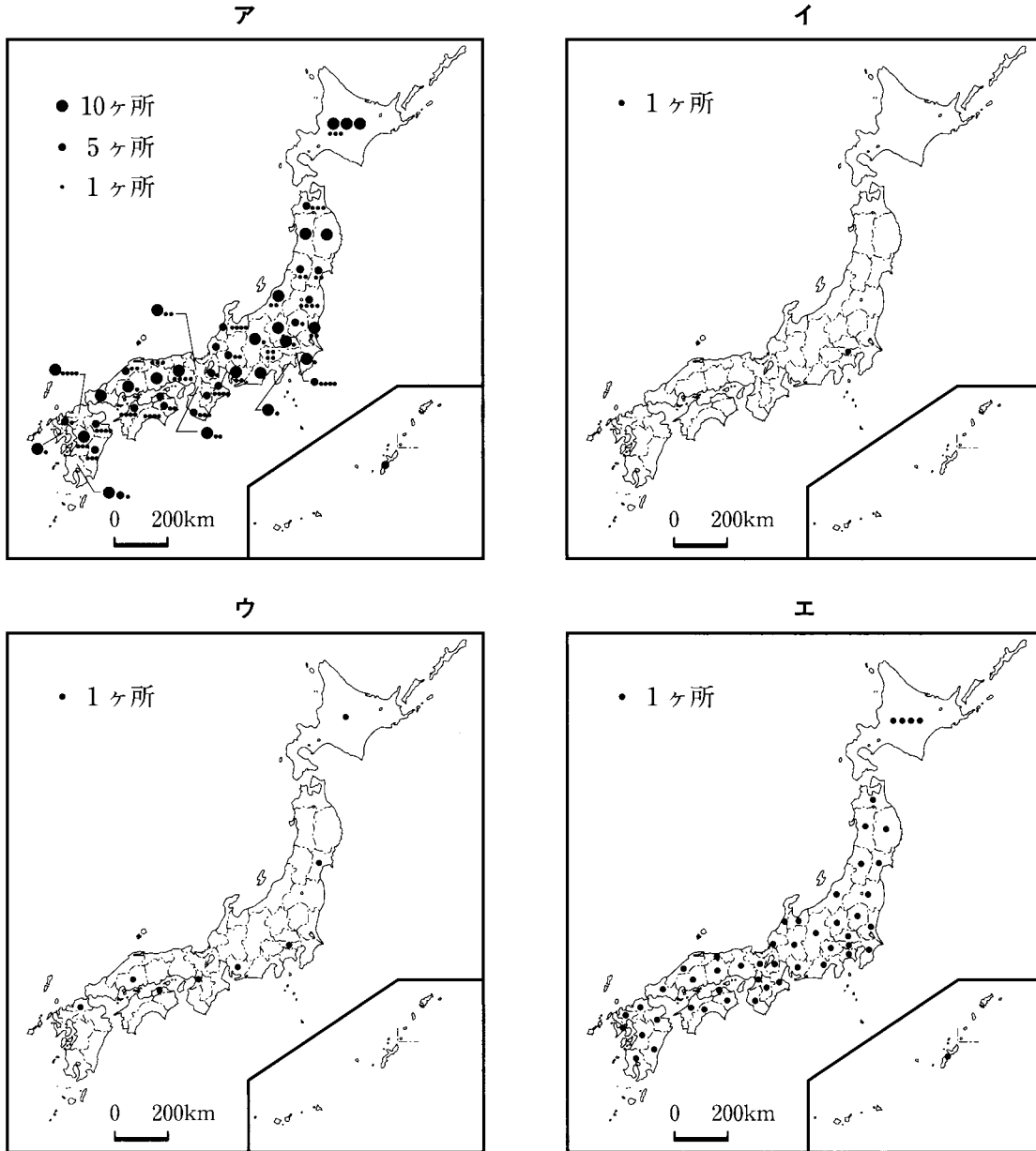


〔「正保城絵図」より作成〕

II この都市の道路には、戦いの際に侵入者をさまたげたり、弓矢や鉄砲の攻撃を防いだりするため、**丁字型**や**鍵型**になっている所がある。城の周りには武士の居住地、町人の居住地及び寺社地が計画的に配置された。

〔問3〕 次のⅠのア～エの略地図は、わが国の最高裁判所，高等裁判所，地方裁判所，簡易裁判所のいずれかの数を所在する都道府県ごとに示したものである。Ⅱの文章は、Ⅰの略地図で示した裁判所のいずれかについて述べたものである。Ⅱの文章で述べている裁判所に当てはまるのは、Ⅰのア～エの略地図のうちのどれか。

Ⅰ

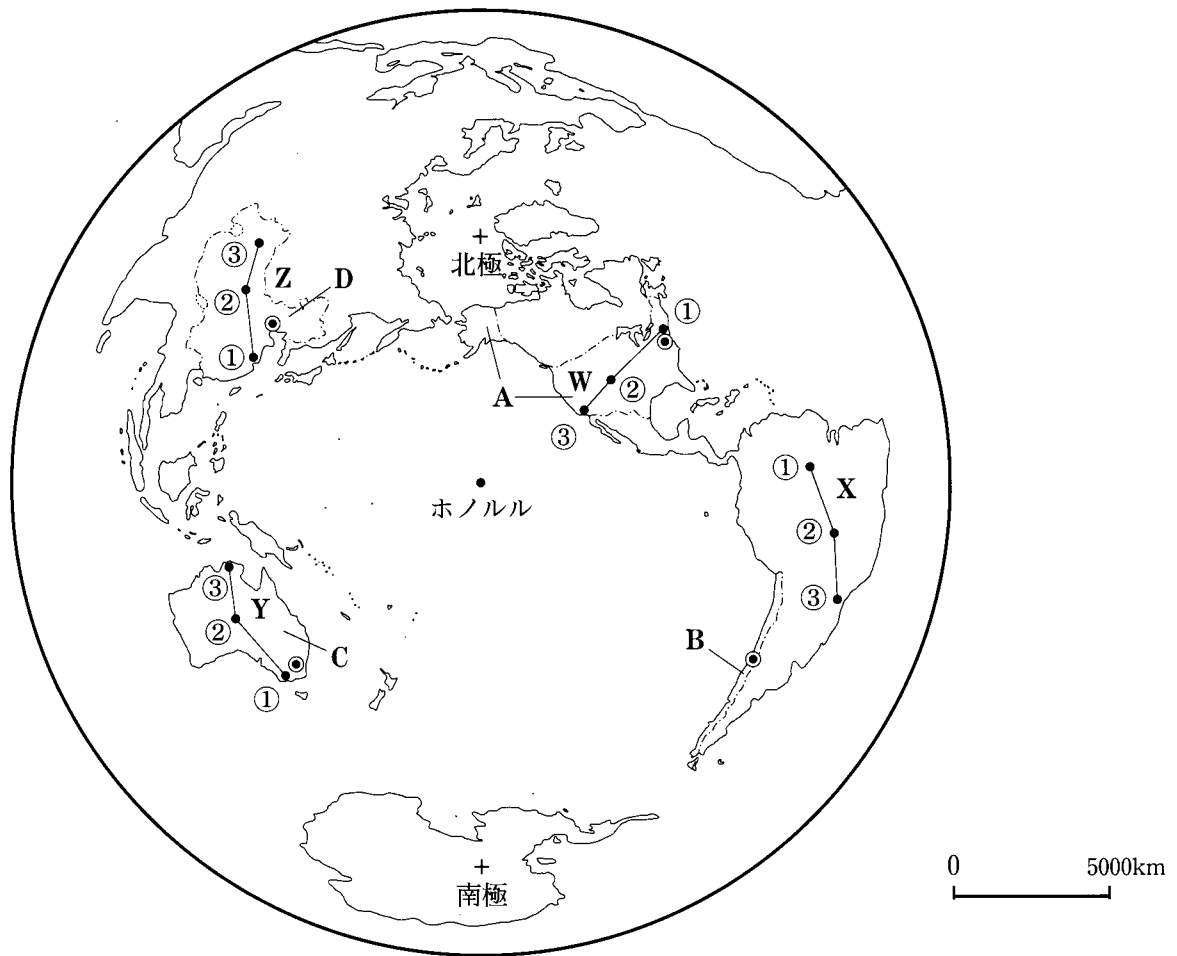


(「下級裁判所の設立及び管轄区域に関する法律」をもとに作成)

Ⅱ

この裁判所は、下級裁判所に分類される。三審制において、主に第二審の裁判を担当するが、刑事裁判や民事裁判のなかで、第一審や第三審の裁判を担当することもある。この裁判所は、1875年に東京、大阪などの4都市に置かれたのが始まりで、その後、各地方の主要都市に置かれている。

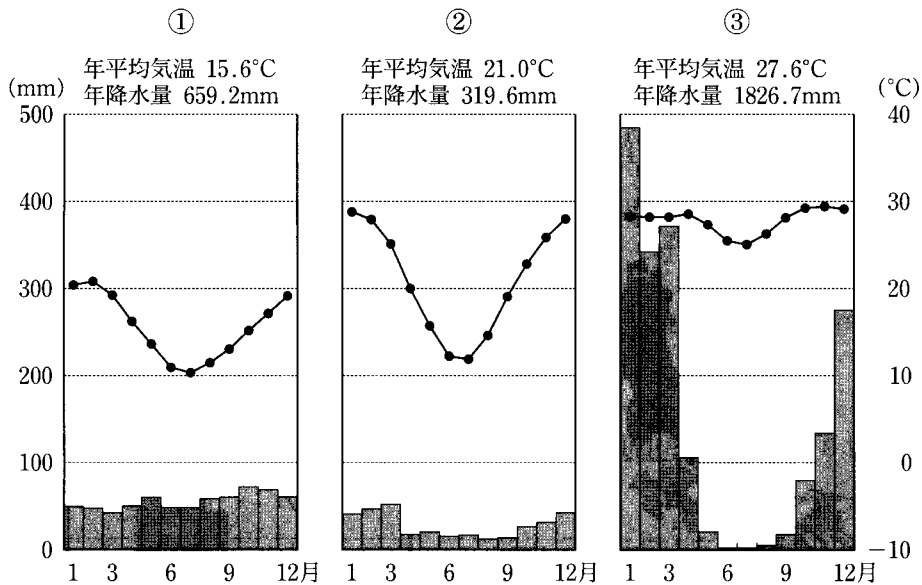
2 次の略地図は、ホノルルからの距離と方位を正しく表した地図である。あとの各問に答えよ。



〔問1〕 次の表のア～エは、略地図中に◎で示したA～Dのいずれかの国の首都のおよその緯度及び経度を示したものである。略地図中にAで示した国の首都に当てはまるのは、下のア～エのうちのどれか。

	緯度	経度
ア	北緯38度	西経 77度
イ	南緯33度	西経 70度
ウ	北緯39度	東経116度
エ	南緯35度	東経149度

〔問2〕 次ページの①～③のグラフは、略地図中にW～Zで示したいずれかの線上にある①～③のそれぞれの都市の、年平均気温と年降水量及び各月の平均気温と降水量を示したものである。次ページの①～③のグラフに当てはまる都市を含む線は、W～Zのうちのどれか。



〔理科年表〕平成19年より作成

〔問3〕 略地図中のA～Dのそれぞれの国について、Iの表は、1980年と2006年における日本への輸出額及び日本への輸出品の上位3位の品目と輸出額に占める割合を、IIの表は、1980年と2006年における日本からの輸入額及び日本からの輸入品の上位3位の品目と輸入額に占める割合を示したものである。IIIの文章で述べている国に当てはまるのは、略地図中のA～Dの国のうちのどれか。

I

	日本への輸出額 (百万円) (上段は1980年 下段は2006年)	日本への輸出品の上位3位の品目と輸出額に占める割合 (%) (上段は1980年, 下段は2006年)		
		1位	2位	3位
A	5558112 7911227	木材(9.0) 半導体等電子部品(6.9)	石炭(6.4) 航空機類(6.2)	とうもろこし(6.0) 科学光学機器(6.2)
B	147428 843630	鉄鉱石(38.1) 非鉄金属(66.3)	非鉄金属鉱(23.9) 魚介類(12.6)	非鉄金属(15.7) 木製品等(4.0)
C	1585183 3247918	石炭(24.7) 石炭(30.4)	鉄鉱石(19.7) 液化天然ガス(14.5)	羊毛(7.4) 鉄鉱石(13.6)
D	977794 13784370	原油(45.0) 衣類等(16.4)	繊維製品(12.4) 電算機類(8.7)	石油製品(7.2) 音響映像機器(6.0)

II

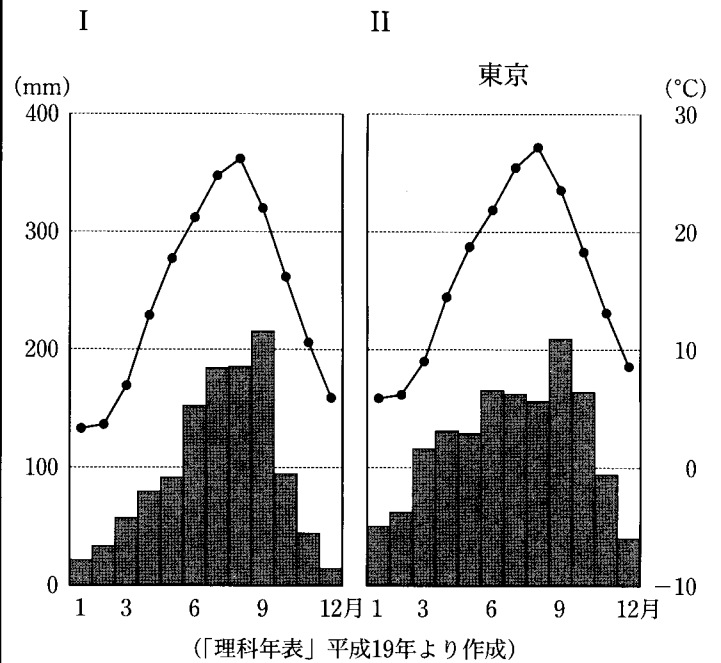
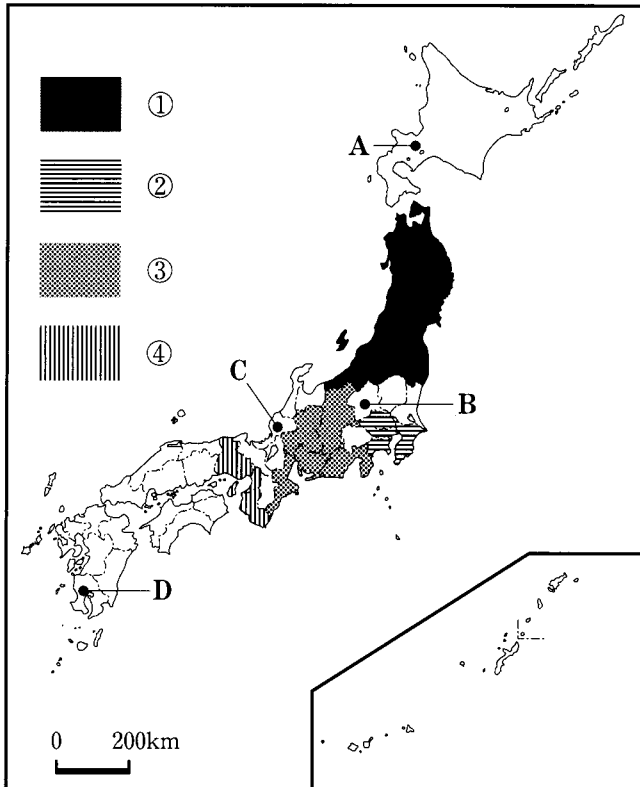
	日本からの輸入額 (百万円) (上段は1980年 下段は2006年)	日本からの輸入品の上位3位の品目と輸入額に占める割合 (%) (上段は1980年, 下段は2006年)		
		1位	2位	3位
A	7118068 16933590	自動車(32.3) 自動車(31.2)	鉄鋼(8.6) 自動車の部分品(5.9)	科学光学機器(4.6) 原動機(4.2)
B	103450 126421	自動車(41.1) 自動車(59.3)	鉄鋼(6.9) 原動機(9.8)	ラジオ受信機(6.3) ゴム製品(5.4)
C	761727 1453105	自動車(22.0) 自動車(46.8)	鉄鋼(6.7) 映像機器(4.8)	事務用機器(3.0) 建設用・鉱山用機械(4.0)
D	1140787 10793696	鉄鋼(27.0) 半導体等電子部品(8.8)	船舶(5.5) 鉄鋼(6.4)	金属製品(5.1) 有機化合物(5.3)

〔外国貿易概況〕平成18年12月号などより作成

III

○2006年のこの国とわが国との貿易は、この国の黒字となっている。
○この国は、1980～2006年の期間に工業化が一層進み、輸出品、輸入品ともに多様化している。

3 次の略地図をみて、あとの各問に答えよ。



〔問1〕 上のIのグラフは、略地図中にA～Dで示した**いずれか**の都市の各月の降水量と平均気温を、IIのグラフは、東京の各月の降水量と平均気温を示したものである。次のア～エの文章は、略地図中にA～Dで示した都市の気候及びその都市が所在する道県の様子について述べたものである。Iのグラフで示した都市が所在する道県について述べているのは、次のア～エのうちではどれか。

ア この都市は、東京と比較すると年降水量は多く、北西から吹く風の影響で1月の降水量が最も多くなり、年平均気温は東京よりも低い。この地域の沖合には暖流が流れ、沿岸部には、リアス式海岸が発達し、大都市への電力を供給する発電所が立地している。

イ この都市は、東京と比較すると年降水量は多く、6月の降水量が最も多くなり、年平均気温は東京よりも高い。この地域には、現在も噴煙を上げる火山が見られ、火山灰の堆積物に覆われた土地が広がり、また、農業や養殖業が盛んである。

ウ この都市は、東京と比較すると梅雨の影響を受けないため年降水量は少なく、8月の平均気温は東京よりも低い。この地域には、湖や湿原があり、北東部の沿岸に流水が接岸し、また、広大な土地を利用した農業や酪農等が行われている。

エ この都市は、東京と比較すると冬季の降水量は少なく、各月の平均気温のうち最低気温と最高気温の差が東京よりも大きい。この地域には、乾燥した風に備えるために北側に防風林を設けた家屋が見られ、各地で湧き出る温泉を利用した観光産業がみられる。

[問2] 次のIの表のア～エは、略地図中の①～④で示したいずれかの地域について、2000年における人口、水使用量、耕地面積、工業出荷額を示したものである。IIの文章で述べている地域に当てはまるのは、Iのア～エのうちのどれか。

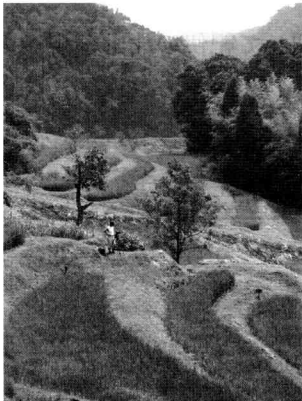
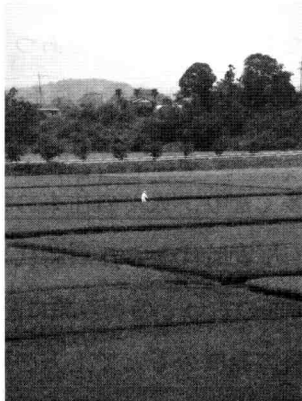
I

	人口 (千人)	水使用量 (取水量ベース, 億m ³ /年)			耕地面積 (千ha)		工業出荷額 (兆円)
		生活用水	工業用水	農業用水	水田	畑	
ア	33414	43.1	11.5	25.9	132	118	55
イ	16990	22.8	24.6	51.7	226	171	73
ウ	15425	21.2	9.6	22.2	94	35	31
エ	12293	14.7	13.0	159.0	793	273	22

(「日本の水資源」平成19年版などより作成)

- II
- 内陸部には、太平洋や日本海に注ぐ河川の水源や、産業別人口に占める第一次産業の割合が10%近くに達し、農業が盛んな地域がある。
- 沿岸部には、高速道路や新幹線で結ばれた都市や、水を大量に使用するパルプ工業や自動車関連工業をはじめ、多くの工場が集中している地域がある。

[問3] 次の写真Iと写真IIは、地形の異なる水田の様子をそれぞれ示したものである。写真Iのような地域は、写真IIのような地域と比較すると、稲作を続けることが難しい面もある。IIIの表は、写真Iのような地域と写真IIのような地域の農家について、経営耕地面積の大きさごとの割合を示したものである。IVの表は、米60kgを生産するのにかかる費用の合計を作付規模別に示したものである。写真Iのような地域が、写真IIのような地域と比較して、稲作を続けることが難しい理由について、地形の違いに着目し、III、IVの資料を活用して簡単に述べよ。

I  II  IV

作付規模(ha)	費用合計(円)
0.5未満	24028
0.5～1.0未満	20449
1.0～2.0未満	18001
2.0～3.0未満	15194
3.0～5.0未満	13622
5.0～10.0未満	11896
10.0～15.0未満	11510
15.0以上	10964

(「農業経営統計調査 平成18年産米生産費」より作成)

III

	0.5ha未満	0.5～1.0ha未満	1.0～2.0ha未満	2.0ha以上
写真Iのような地域 (%)	34.4	39.9	18.2	7.5
写真IIのような地域 (%)	15.6	31.0	31.9	21.5

(注) この表で示した割合は、北海道を除く都府県について示したものである。

(「2000年世界農林業センサス」より作成)

4 次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

道路は、人や物を移動させるという機能をもつとともに、社会の発達のために重要な役割を果たしてきた。

政治の面では、都などを中心とした道路が整備され、国や地域の支配が進められた。経済の面では、各地で産業が盛んになり、商人の活動範囲が広がると、産業の発達がさらに促された。文化の面では、時代とともに、文化の伝播や交流の機会も多くなり、人々の往来の様子などが文学作品などにあらわされた。

しかし、時代によっては、道路が本来もつ機能である人や物の移動が制限されたこともあった。明治時代以降、交通機関の発達にともない道路の整備は一層進み、上下水道や電気など人々の生活を支える設備を地下に収めるなどの新たな機能も加わった。近年は、景観や交通安全などへの配慮とともに人々が交流する場としての機能などがより求められている。

〔問1〕 都などを中心とした道路が整備され、とあるが、奈良時代の様子について述べているのは、次のア～エのうちではどれか。

ア 将軍への奉公や問注所へ訴訟の申し入れを行う御家人などの往来が増えるなかで、各地から幕府の置かれた都市へ向かう道路が整備された。

イ 江戸、大阪、京都の三都を中心に各地が道路で結ばれ、これらの道路には、本陣、旅籠などの宿泊施設や一里塚、並木などが整備された。

ウ 律令に基づく政治が強く進められるなかで、都と地方を結ぶ道路には、役人が往来に利用するため、駅が設けられ、駅馬が整備された。

エ 天皇の地位を退き院政を行った上皇らが、仏教をあつく信仰して紀伊の熊野権現への参詣をたびたび行なうなかで、熊野へ向かう道路が整備された。

〔問2〕 文化の伝播や交流の機会も多くなり、人々の往来の様子などが文学作品などにあらわされた。とあるが、次のア～エは、平安時代から江戸時代にかけてつくられた旅に関する作品について述べたものである。時期の古いものから順に記号を並べよ。

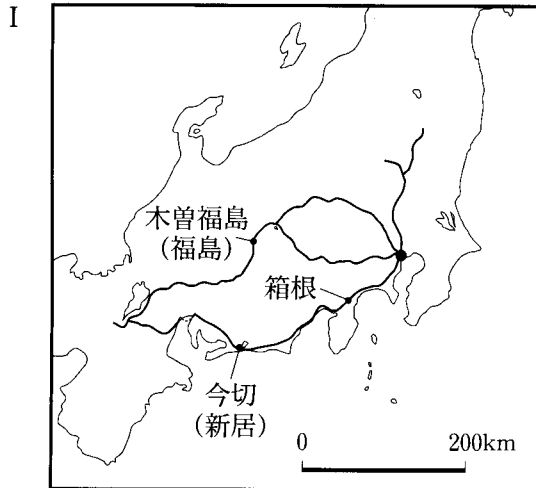
ア 政治が安定し、めざましい経済の発展のもとで上方の町人中心の文化が栄えたころ、俳諧を芸術として高めた松尾芭蕉は、東北や北陸の名所旧跡などを訪れて紀行文を書いた。

イ 武士の台頭により素朴で力強い文化が広がっていったころ、諸国をめぐる歩き、踊り念仏などによって修行や布教をする一遍の様子が絵巻に描かれた。

ウ 社会の行きづまりを反映して、政治や世間への風刺が流行したころ、十返舎一九は、二人の人物の旅先での滑稽な失敗談や人々の生活ぶりを紹介した小説を書いた。

エ 大陸のすぐれた文化を吸収し、わが国独自の文化が生まれたころ、国司としての任期を終えた紀貫之は、都に帰るまでの様子をかな文字を使って日記に書いた。

〔問3〕 道路が本来もつ機能である人や物の移動が制限されたこともあった。とあるが、次のIの略地図は、江戸時代のおもな街道とおもな関所を示したものである。IIの文章は、Iの略地図に示した関所における取り調べ内容の一部を示したものである。IIIの略年表は、徳川氏と大名との関係を示したものである。I～IIIの資料を参考に、江戸との関係に着目して、関所の役割について簡単に述べよ。



- II
- 上方などから下る鉄砲は、すべて老中の証文を確認して、通すこと。
 - 関所から外に出る女性は、細かく証文を確認して、通すこと。

(「諸国御関所覚書」などより作成)

III

西暦	徳川氏と大名との関係
1599	●大名の前田氏が妻子を証人(人質)として家康に差し出した。
1624	●諸大名に対し、妻子を江戸に置くことを定め、大名の島津氏が最初に妻子を江戸に移した。
1634	●譜代大名に対し、妻子を江戸に移すことを命じた。
1862	●大名の妻子の、江戸からの帰国が許された。

〔問4〕 明治時代以降、交通機関の発達にともない道路の整備は一層進み、とあるが、次の略年表は、明治時代から昭和時代後期までの、東京の交通に関するおもなできごとについてまとめたものである。略年表中のAの期間における東京でのできごとについて述べているのは、下のア～エのうちではどれか。

西暦	おもなできごと
1874	●京橋から金杉橋(浜松町)までの道路に85基のガス灯が設置された。
1900	●車両の増加にともない、警視庁が道路取締規則を制定した。
1904	●馬が戦争に利用されたことも影響して馬車鉄道がなくなった。……………
1920	●日本初の横断歩道が本所に作られた。
1926	●恐慌のなかで、料金を1円均一にした円タクとよばれるタクシーが登場した。
1931	●日本初の三色灯の自動信号機が、銀座に設置された。……………
1945	●外国人専用のガイド付き東京遊覧バスが運行を始めた。
1963	●東京初の横断歩道橋が、五反田に設置された。
1970	●銀座・新宿・池袋・浅草で日曜日に歩行者天国が実施された。

A

- ア 戦争が長期化し、国家総動員法が制定されるなど人々の暮らしが統制されるなかで、神田から新橋にかけての通りの植樹地帯が、野菜の自給自足を目指し、農園として利用された。
- イ 商工業の発展により、東京の人口が急増するなかで、新たな交通機関として登場した乗合自動車(バス)は、関東大震災後に路線を拡大し、主要な輸送機関として利用された。
- ウ 家電製品や自家用自動車が普及し、人々の生活が快適で豊かになるなかで、東京オリンピックの開催に先立って、京橋と芝浦を結ぶ首都高速道路が開通した。
- エ 鉄道の開通など欧米の文化が取り入れられ始め、大都市を中心に人々の生活にも大きな変化が生じるなかで、れんがで舗装された銀座通りには、人力車や乗合馬車などが走った。

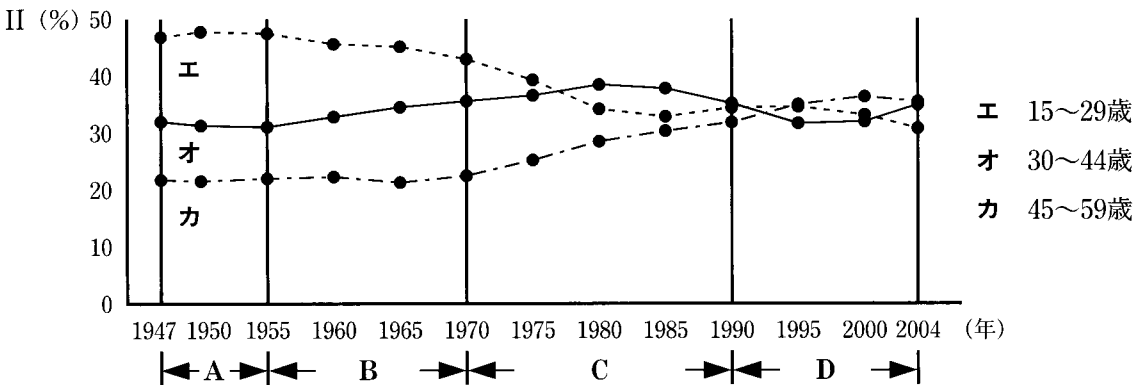
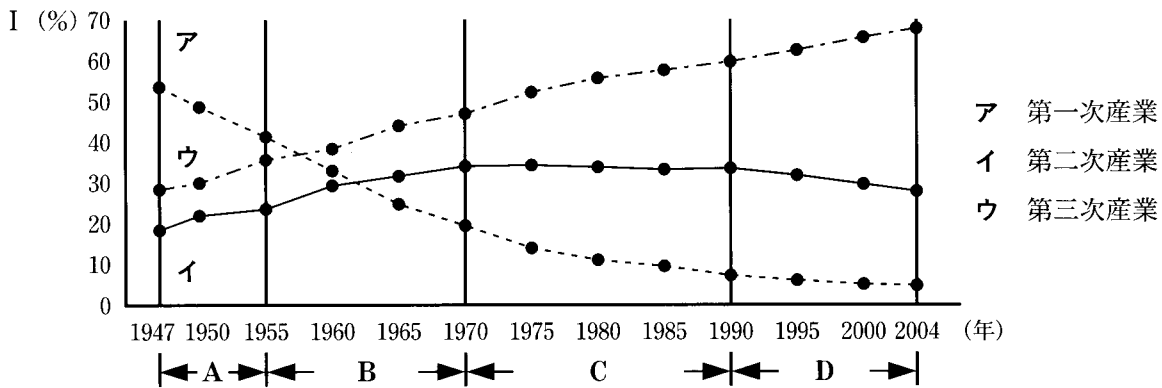
5 次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

日本国憲法は、すべての人々に勤労の権利を保障し、国は、働く人々の労働条件の整備などを目的としてさまざまな法律を定めた。産業の発展など社会の変化にともない、産業別就業者数や就業者の年齢構成も大きく変わってきた。また、労働条件の整備などを一層進めるために、国は、労働に関する法律の改正や新たな法律の制定を行ってきた。一方、働く人々を取り巻く状況が変化していくなかで、人々の就職先の選択に対する考え方も変わってきている。

〔問1〕 日本国憲法は、すべての人々に勤労の権利を保障し、とあるが、次の文章で述べている権利を何というか、名称を漢字3字で書け。

すべての人が人間らしく生きられるように、個人の生存や生活の維持・発展に必要な条件を国に求める権利である。1919年にドイツで制定されたワイマール憲法ではじめて規定された。日本国憲法においては、生存権、教育を受ける権利、勤労権、労働基本権（労働三権）がこの権利にあたる。

〔問2〕 産業の発展など社会の変化にともない、産業別就業者数や就業者の年齢構成も大きく変わってきた。とあるが、次のIのグラフは、わが国の1947年から2004年までの産業別就業人口比率の推移を示したものであり、IIのグラフは、わが国の1947年から2004年までの生産年齢人口の世代別人口割合の推移を示したものである。次のページのIIIの文章で述べている時期に当てはまるのは、I及びIIのグラフのA～Dのうちのどれか。



(「数字で見る日本の100年」改訂第5版などより作成)

III

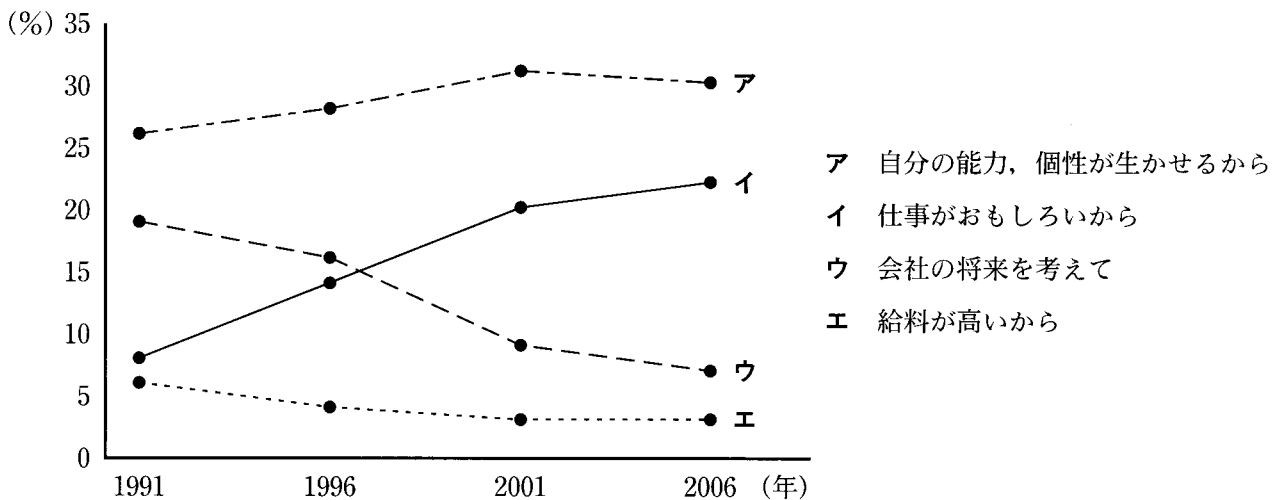
製造業は、機械化を進めたり、工場を海外に移したりして、輸出競争力を高めた。また、国民の収入が増えたことなどにより、外食や観光などを含む産業が成長し、そこで働く人の割合が増えた。この時期のはじめには生産年齢人口に占める45～59歳の人々の割合は、15～29歳の人々の割合と比べ、およそ半分程度であったが、この時期の終わりにはほぼ同様となった。

〔問3〕 国は、労働に関する法律の改正や新たな法律の制定を行ってきた。とあるが、次の文章⁽³⁾で述べている法律に当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。

1987年に改正され、労働時間の限度を、それまでの週48時間から、原則として1日8時間、週40時間に短縮した。

- ア この法律は、労働者が人たるに値する生活を営むために、労働条件の最低基準について定めるとともに、労働者と使用者が労働条件の向上を図る努力をすることについて定めている。
- イ この法律は、労働者の地位の向上を図ること、労働者が労働条件について団体交渉をしたり、団体行動を行ったりするために労働組合を組織することなどについて定めている。
- ウ この法律は、男女が社会の対等な構成員として、自らの意思によって社会のあらゆる分野における活動に参画する機会を確保するとともに責任を担う社会を実現するための基本的な考え方について定めている。
- エ この法律は、採用、昇進、教育訓練、定年など雇用の場面における機会や待遇などの男女平等の確保を図るとともに、妊娠・出産後の健康の確保を進めることについて定めている。

〔問4〕 人々の就職先の選択に対する考え方も変わってきている。とあるが、次のグラフは、わが国の1991年から2006年までの新入社員の会社選択理由の推移を示したものである。1991年から2006年までの会社選択理由の変化の様子について簡単に述べよ。その際、1991年を基準に2006年と比較して増減の割合の大きな会社選択理由を二つ取り上げること。



(平成19年度新入社員『働くこと意識』調査報告書)より作成)

6

次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

人々は、数多くの発見や、新しい技術を生み出すなかで、生活を便利にし、社会を発展させてきた。特に、第二次世界大戦後には、さまざまな分野で技術革新が進み、人々の生活や社会の様子が急速に変化した。しかし、国によってその状況は異なっている。

現在、地球上には環境問題やエネルギー問題など国家の枠を越えて解決すべき課題があり、課題解決のためには一層の技術革新が不可欠である。わが国でも、高い技術力を生かした多くの取組みが各地で進められている。

〔問1〕 数多くの発見や、新しい技術を生み出すなかで、とあるが、次のア～エは、それぞれの時代⁽¹⁾に大きな影響をあたえたできごとについて述べたものである。時期の古いものから順に記号を並べよ。

- ア イギリスで蒸気機関が改良され、^{ぼうせき}紡績業をはじめとした工場の機械化が進み生産量が増大するとともに、蒸気機関車や蒸気船によって輸送力も飛躍的に伸びた。
- イ アメリカ合衆国とソビエト連邦の冷たい戦争（冷戦）とよばれる対立のなかで、ソビエト連邦により初めて打ち上げられた人工衛星の技術は、通信をはじめさまざまな分野に応用された。
- ウ ライト兄弟が初飛行を成功させた航空機は、兵器として第一次世界大戦で用いられた後、定期航空路の開設にとともに人々の輸送にも利用されるようになった。
- エ ヨーロッパの人々が、進んだ造船技術や航海術を利用して、アジアとの直接貿易のための航路を開拓するなかで、コロンブスは大西洋を横断しアメリカ大陸に達した。

〔問2〕 しかし、国によってその状況は異なっている。とあるが、次のIの表のア～エは、オランダ⁽²⁾、スペイン、大韓民国、マレーシアのいずれかの国の首都と東京とのおよその距離と、1980年、1990年、2000年の一人あたりの国内総生産、2003年における百人あたりの自動車の保有台数及び千人あたりのインターネット利用者数を示したものである。下のIIの文章で述べている国に当てはまるのは、Iのア～エのうちのどれか。

I	およその距離 (km)	一人あたりの国内総生産 (ドル)			自動車の保有台数 (百人あたり(台))	インターネット利用者数 (千人あたり(人))
		1980年	1990年	2000年		
ア	5300	1812	2419	3881	26.9	344.1
イ	9300	12590	19714	23283	48.7	521.9
ウ	1200	1674	6153	10890	30.4	609.7
エ	10800	5918	13132	13871	55.6	239.1

(注) 国内総生産とは、一つの国の中で新たに生み出された価値の総額を示した数値のこと。

(「世界国勢図会」2005/06年版などより作成)

II

この国は、江戸時代の鎖国下においても幕府によって貿易が認められ、わが国に新しい技術や文化をもたらした。特に、18世紀にわが国にもたらされた医学書は日本語に翻訳され、わが国の自然科学の発展に影響を与えた。

1980年代は、1990年代に比べて高い経済成長がみられ、現在では、サービス産業が経済の中心となり、情報技術も普及し、広く国民に利用されている。

〔問3〕 高い技術力を生かした多くの取組みが各地で進められている。とあるが、次のIの表の⁽³⁾ア～エは、2005年と2007年における、太陽光発電、地熱発電、バイオマス発電、風力発電のいずれかの発電方法について、わが国が認定した設備件数及び総発電出力を示したものである。下のIIの文章で述べている発電方法に当てはまるのは、Iのア～エのうちのどれか。

	設備件数 (件)		総発電出力 (kW)	
	2005年	2007年	2005年	2007年
ア	1	1	2000	2000
イ	247	308	5020558	10715086
ウ	243	329	920529	1568524
エ	198159	341762	741278	1265982

(注) バイオマス発電とは、食品・林業廃棄物、家畜の糞尿^{ふんにょう}、木質チップ、木質系建築廃材などを燃焼させるなどして行う発電方法のこと。

(注) 2005年の数値は2005年4月1日現在の数値、2007年の数値は2007年6月30日現在の数値である。

(資源エネルギー庁の資料より作成)

II

この発電方法は、天候などの自然条件に影響されるものの、装置は他の発電方法に比べ設置する場所を選ばない。技術開発が進み発電装置の性能が向上し発電効率が上がるとともに、価格が下がったため、公共施設や企業だけでなく一般家庭にも普及しつつあり、設備件数の増加が著しく、総発電出力も増加している。今後も地球環境に与える影響が少ないエネルギーとしてますます普及していくことが予想される。